

抱き起こし方法における体圧とずれ力の測定、 抱き起こした場合とギャッジアップした場合の比較

看護部 5 階病棟 山本政子 八十浜成人 岩寄佑希恵

1. はじめに

A 病棟では仙骨部に褥瘡がある患者がベッド上座位姿勢を取る際、看護師 2 名で患者を抱き起こした後ベッド頭側をギャッジアップ（以下ギャッチアップとする）し、仰臥位に戻す時は先にベッドを水平にしてから患者を臥床させている。この方法は褥瘡好発部位の仙骨・坐骨の除圧やずれ力の軽減を期待して行なっているものであるが、実際の効果を知る為に、抱き起こした場合とギャッジアップした場合の体圧とずれ力を測定し比較した。

2. 用語の定義

- 1) ずれ力：皮膚表面接線方面に動く力であり、本研究では座位時における、皮膚表面と寝具との間に生じる力を意味する。単位は Newton の N で示す。
- 2) 残留ずれ力：頭側ギャッジアップ後仰臥位に戻してもずれ力がゼロにならないこと
- 3) 体圧：皮膚表面に垂直に動く力であり、本研究では座位時における、皮膚表面と寝具との間に生じる力を意味する。単位は mmHg で示す。
- 4) 抱き起こし座位：仰臥位の姿勢から介助者が二人で両側より患者を支え抱き起こす動作の事。
- 5) 背抜き：ギャッジアップ・ダウン時に生じるずれ力を解消する為に背中をベッドから離す事。

3. 研究方法

- 1) 対象：健常成人女性 8 名（BMI：18.5—25）
- 2) 測定体位：仰臥位 ギャッジアップ 80 度 抱き起こし 80 度
- 3) 測定部位：仙骨
- 4) 測定方法：体圧・ずれ力同時測定器プレディア（モルテン社）を用い、ベッドをギャッジアップした時と抱き起こした時の体圧とずれ力について、各被験者の 3 回の測定値の平均をとり、t 検定で比較した。

4. 結果

- 1) 体圧はギャッジアップ 80 度近くで開始時より軽減するが、抱き起こし 80 度では開始時より増大した。両方法とも仰臥位に戻った時には開始時の値に近づいた。（図 1）
本研究で行った抱き起こし方法は、残留ずれ力を開放するための背抜きを想定して行っているが、両方法ともベッドを水平にした後もずれ力は 0 にはならず残留ずれ力が発生した。（図 2）

両方法で測定した体圧とずれ力を T 検定で比較した結果、有意差は認められなかった。

- 2) 被験者は、ギャッチアップ 80 度では全員が胸・腹部の圧迫感、背部のずれ感を感じたが、抱き起こしでは全員が感じなかった。今回は数値として確認する事は出来なかったが、抱き起こし方法は胸・腹部の圧迫感、背部ずれ感の解消には効果的であったと考える。

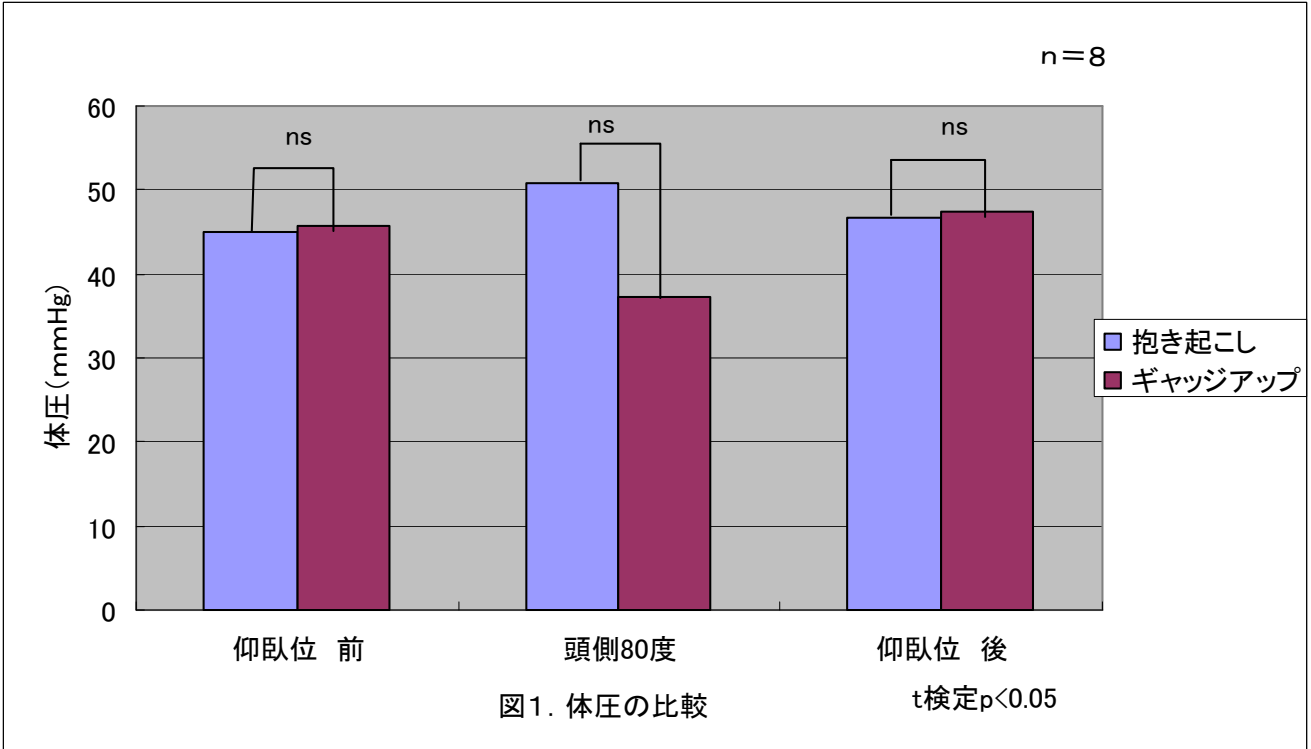


図1. 体圧の比較

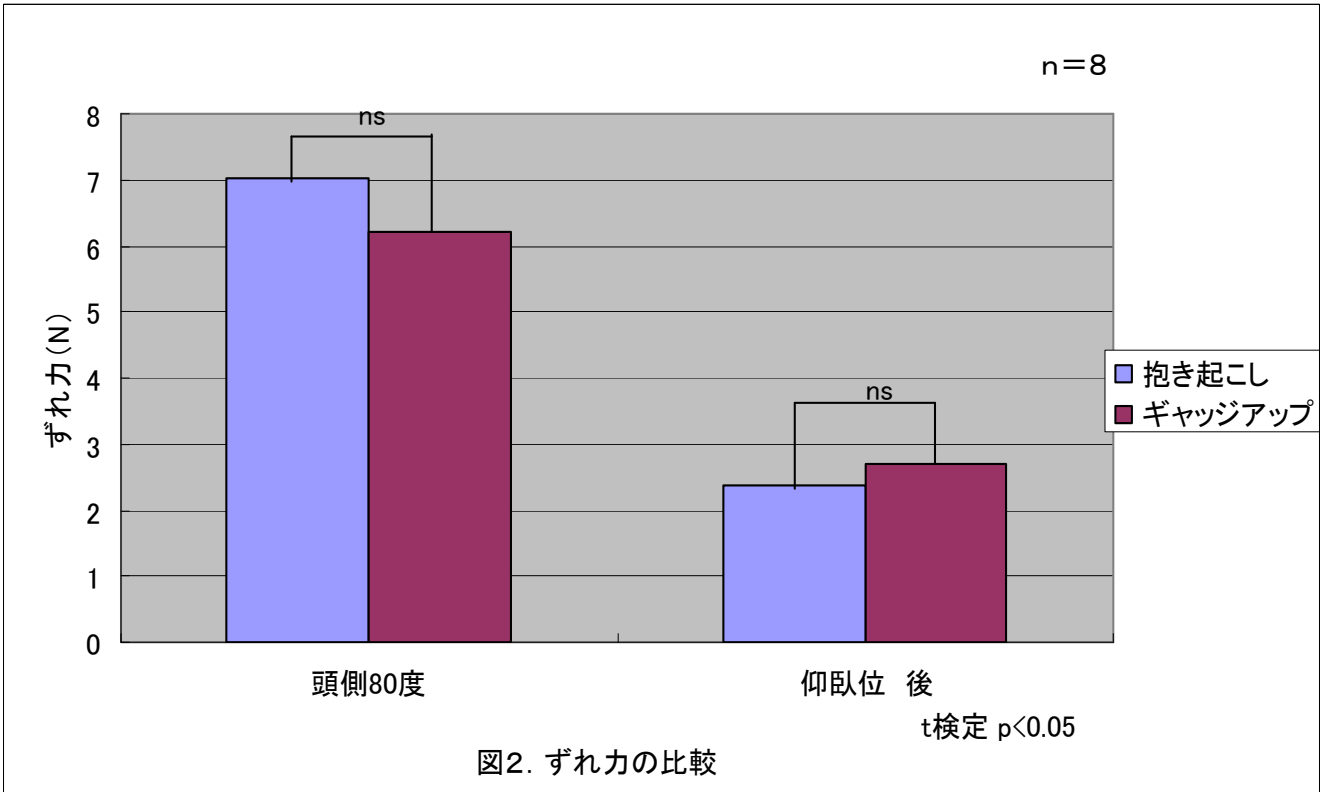


図2. ずれ力の比較